

道営工業用水道

平成30年度決算と経営改善の状況について



北海道

その先の、道へ。北海道

Hokkaido.Expanding Horizons.

令和元年8月
北海道企業局



損益計算書（北海道工業用水道事業全体）

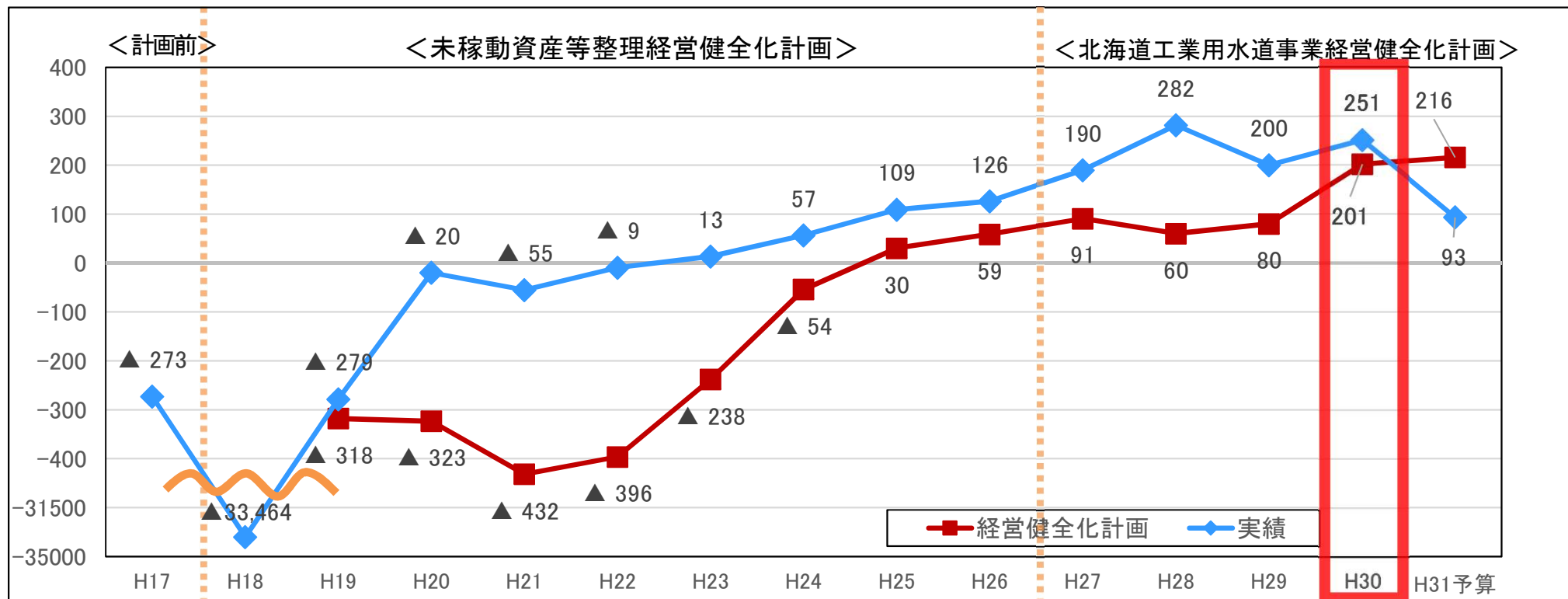
科 目	平成29年度決算	平成30年度決算	増 減	主な増減理由
	金 額	金 額		
営業収益	1,862,279	1,857,835	▲ 4,444	
うち給水収益	1,860,903	1,856,498	▲ 4,405	北ガス水張り試験終了に伴う特定水量の減(石狩)
営業外収益	218,692	203,694	▲ 14,998	
うち長期前受金戻入益	215,541	196,645	▲ 18,896	※下記「減価償却」に係る補助金償却額の減
収益計	2,080,971	2,061,529	▲ 19,442	
営業費用	1,703,831	1,646,811	▲ 57,020	
減価償却費	871,417	807,216	▲ 64,201	S54幌別ダム改修工事減価償却の減(室蘭)
その他管理運営費	832,414	839,595	7,181	包括管理委託費に係る労務単価の増(苫小牧、石狩)
営業外費用	177,289	154,968	▲ 22,321	
うち支払利息	177,218	154,881	▲ 22,337	高金利企業債(H5年度借入。利率年3.75%)の償還終了による減(苫小牧)
費用計	1,881,120	1,801,779	▲ 79,341	
	199,851	259,749	59,898	
特別利益	—	1	▲ 1	
特別損失	—	8,876	▲ 8,876	
うち固定資産除却損	—	8,876	▲ 8,876	薬品貯留槽更新(苫小牧)※経過年数21年(耐用年数60年で一体償却)で更新
純 損 益	199,851	250,875	51,024	

(注)表中における計数は、それぞれ四捨五入によっているので、計とは一致しない場合がある。

2つの健全化計画を通じた経営改善の状況

1 損益の推移

(百万円)

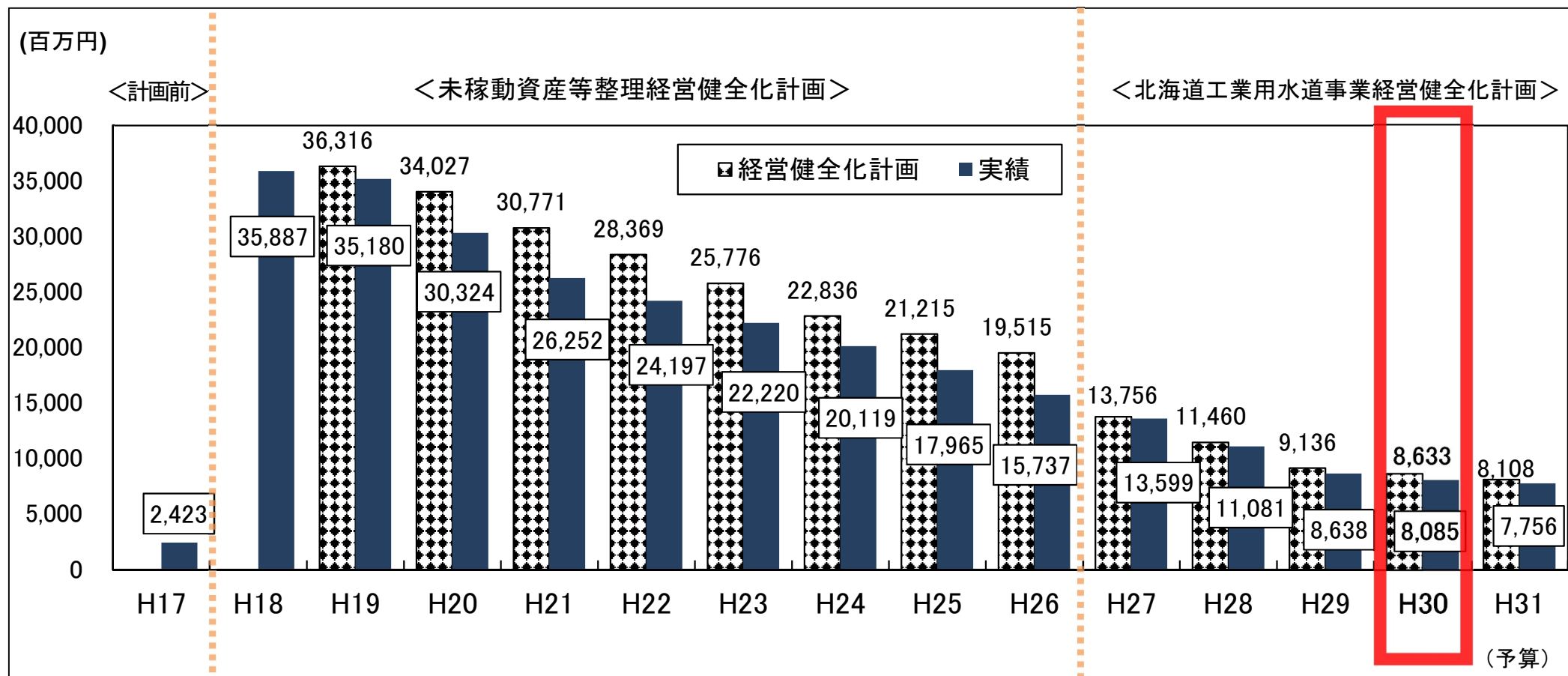


○未稼働資産整理を行ったH18年度は、資産処分に伴う特別損失の発生により、33,464百万円の純損失を計上

○未稼働資産整理後は、資産処分に伴う減価償却費の減や、企業債繰上償還に伴う支払い利息の減により収支が徐々に改善し、平成23年度に黒字化を達成。

○その後、平成30年度決算まで8期連続で黒字を計上。

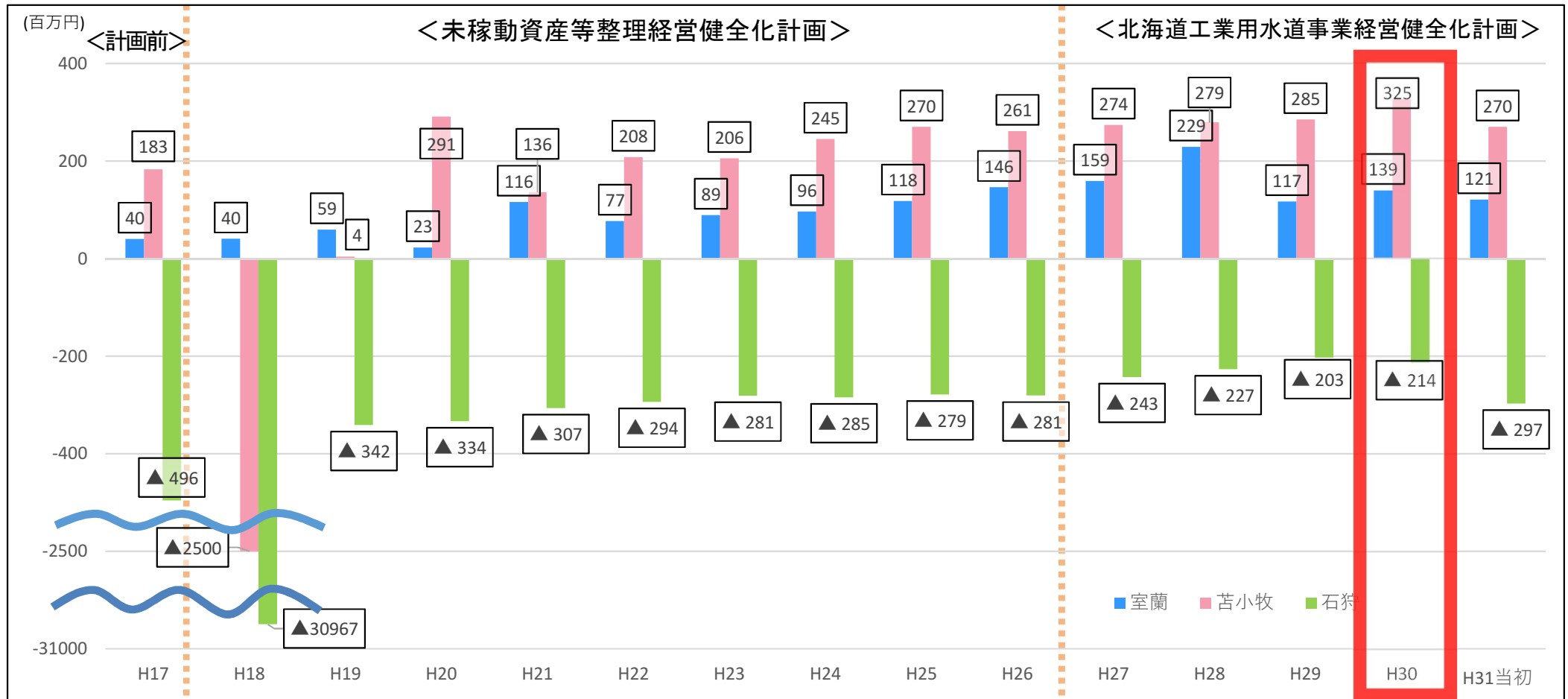
2 未処理欠損金の推移



○平成18年度末の未処理欠損金は、未稼動資産整理に伴う当年度特別損失約334億円に前年度までの累積欠損金約24億円を加えた約358億円となった。

○この未処理欠損金については、資本剰余金(未稼動資産整理債償還に対する一般会計からの補助金等)の取り崩し及び平成23年度以降の利益剰余金の充当により毎年度補填し、平成30年度末には約81億円まで低減。

3 工水別損益の推移



○平成18年度末に苦東及び石狩工水の未稼働資産整理による多額の特別損失を計上した後、室蘭工水及び苦小牧工水については純利益を毎年継続的に計上している。

○石狩工水については契約率が低いことなどから依然として純損失を計上しており、これに伴う運転資金不足額について、一般会計から繰入を受けている。

○平成30年度は室蘭工水と苦小牧工水で前年を上回る純利益を計上したが、石狩工水については前年度のような特定水量の使用がなかったため、対前年度比で純損失が上回った。